

〔様式 1〕

事務事業評価表

記入年月日	平成16年4月20日			
平成16年度	事業コード	32210	電話	042-749-2211
担当部課名	土木部	南土木事務	所	道路補修 班
事務事業名	視覚障害者誘導用ブロック設置工事			
予算上の事務事業名	交通バリアフリー道路特定事業			

1 総合計画における位置づけ

政策名	第2章	質の高い都市基盤の整備を進めます	事業開始年度
基本施策名	第2節	安全でゆとりある道路の整備	13年度
施策名	第1施策	人にやさしいみちづくり	

2 実施根拠及び関連法令等

高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律 相模原市交通バリアフリー基本構想 相模原市交通バリアフリー道路特定事業計画

3 事務の区分

自治事務

4 経費の区分

投資的経費

5 事務事業の分類

県費補助事業

6 受益者負担

なし

7 事業概要

(1)事業の目的...何をどのように(どのような状態に)したいのか	(2)対象(誰、何)
バリアフリーのまちづくりの一層の推進を図るため、道路特定事業に基き事業を推進するもの。	歩行通行者
	対象数
	45,500
	単位
	人
(3)平成15年度事業の内容...市が実際に行った事業の内容	
対象路線：相模大野駅北口駅前広場 事業費 12,490,800円 視覚障害者誘導用ブロック設置延長 L = 393m 視覚障害者との現地検討会(1回)	
(4)個別計画の概要	概要
計画名	相模原市交通バリアフリー道路特定事業計画
計画年次	13年度～22年度
	重点整備地区(相模大野駅周辺地区)の移動円滑化のために実施する事業計画

8 評価指標...事業の目的達成度を計るための指標

16,17年度は目標値

	指標名	指標式・指標の単位	指標設定の意図	指標の推移(年度)				
				13	14	15	16	17
成果指標	事業費の消化率	実施事業費 / 総事業良予算 *100	事業予算から全体の進捗状況をみる			4	8	22
活動指標								

9 事業費等の年度別状況

〔金額単位：千円〕

		平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
		決算	決算	決算(見込み)	予算	予算(見込み)
事業費	決算(予算)額			12,490	12,600	43,000
	人員・時間数			0.5	0.5	0.5
	人件費			4,005	4,005	4,005
	その他経費					
	合計	0	0	16,495	16,605	47,005
特定財源			4,200	4,200	12,330	
対象数(人)			45,500	50,200	60,700	
単位あたり経費(円)	#DIV/0!	#DIV/0!	362.5	330.8	774.4	

10 個別評価(担当課による一次評価)

(1)達成度 評価 A ▼	A:達成している	チェック項目	・成果指標の達成度 <input type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input checked="" type="checkbox"/> 低
	B:一部達成していない		・活動指標の達成度 <input type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
	C:達成していない		・事業目標の達成度 <input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
		説明	滑りやすく視認性が悪かった視覚障害者誘導用ブロックを視覚障害者と現地を歩き、意見を取り入れ、障害者の視点に立った視覚障害者誘導用ブロックの配置ができた。
(2)必要性 評価 A ▼	A:適応している	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・市民や社会のニーズにかなっている
	B:一部適応していない		<input type="checkbox"/> ・状況の変化(対象や内容)に対応している
	C:適応していない		<input type="checkbox"/> ・当初設定した事業目的が達成されていない
		説明	<input checked="" type="checkbox"/> ・国、県、民間、市民との役割分担から見て、市が事業を行う必要がある 高齢化社会の対応として求められている事業である。
(3)有効性 評価 A ▼	A:有効である	チェック項目	<input type="checkbox"/> ・上位の施策、計画目的達成のために有効である
	B:一部有効でない		<input checked="" type="checkbox"/> ・期待された成果が得られている
	C:有効ではない		説明
(4)効率性 評価 A ▼	A:優れている	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・予算や人員に見合った効果が得られている
	B:一部改善の余地がある		<input type="checkbox"/> ・他市と比べてコストや効率性が優れている
	C:改善の余地がある		<input type="checkbox"/> ・他の類似事例と比べてコストや効率性が優れている <input type="checkbox"/> ・同一対象者に対して同種のサービスが重複していない
		説明	「高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律」に基づく「道路の移動円滑化整備ガイドライン」に従い施工したもので優れている。
(5)公平性 評価 A ▼	A:公平である	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・対象者と非対象者との不公平・不均衡は、妥当な範囲である
	B:一部公平でない		<input type="checkbox"/> ・受益者の費用負担は適正である
	C:公平でない		<input type="checkbox"/> ・対象者の設定は適切である(年齢や所得等を考慮している)
		説明	滑りやすく視認性が悪かった視覚障害者誘導用ブロックを改善し設置したことにより、視覚障害者だけでなく一般歩行者にも有益であり、公平性は保たれている。
(6)成果の向上及び費用対効果を高めるための方策		(7)今後の課題となっていること	
早急に視覚障害者誘導用ブロックのネットワーク化を行うことにより、より高い効果が得られる。		視覚障害者が安心して歩行するためには、視覚障害者誘導用ブロックのネットワーク化が必要であり、他の路線の視覚障害者誘導用ブロックも順次整備して行かなければならない。また、駅前広場の誘導は、視覚障害者誘導用ブロックだけでは限界があり、音声装置も必要と思われる。	

11 総合評価(担当課による一次評価)

評価	AAA ▼	他自治体の類似事業との比較
	施工段階において、他自治体で類似事業を行っているところがなかったため、比較することはできなかった。視覚障害者の高齢化に伴い、視覚障害者誘導用ブロックの製品は、現場施工条件、視覚障害者の意見を取り入れ、足に優しい弾力性のある製品を使用している。	
今後の進め方		
<input checked="" type="checkbox"/>	継続	総合評価に関する説明
<input type="checkbox"/>	見直し	相模原市交通バリアフリー道路特定事業計画をさらに現地精査し、より現実性のある事業に近づけた。また、配置等の詳細な部分についても視覚障害者と調整し、視覚障害者の立場に立つて事業を実施した。事業実施後、視覚障害者誘導用ブロックの視認性が良くなった。
<input type="checkbox"/>	完了・廃止	
<input type="checkbox"/>	完了(廃止)済	

12 二次評価コメント(行政評価会議による二次評価)

--